

本年も、広報紙『みずおと』にて鮭川出張所管内での行事などを紹介していきます。

第2回 鮭川管内安全パトロール(冬期)

～安全意識を持ち「労働災害ゼロ」を目指します～

2月3日(金)に、鮭川出張所管内の工事安全パトロールが行われました。新庄河川事務所・鮭川出張所・労働安全コンサルタント・工事関係者が参加し、「最上川中流鮭川地区維持工事」「最上川中流管内河川管理施設維持修繕工事」の2箇所の工事現場を点検しました。このパトロールは、各工事現場の安全対策や、良かった点、改善すべき点を共有し労働災害を未然に防ぐことを目的としています。

工事概要説明

安全パトロールを行う前に、現場担当者から工事概要説明を行います。



現場パトロール

実際に工事現場に行き、作業が安全に行われているか、労働災害に繋がる点はないかを確認しています。



掲示看板のチェック

技術者の適正な配置や施工体系図、緊急時連絡体制表などの工事に関する重要な情報が掲示されています。適正に記入されているかを確認しました。



ホームタンク周辺の積雪



ホームタンク周辺の落雪



落雪によるホームタンクの転倒

積雪や落雪の影響でタンクのレバーが動いたり、落雪によってタンクが転倒し油漏れの原因になることがあります。特に積雪の多い今の時期は、発生元の確認作業に困難が生じるためホームタンク周辺の点検や補修、除雪などお願いします。不安な場合は、業者(灯油販売店・配管設備店)に点検を依頼して下さい。

油流出事故を防ぐための心がけ

- ①その場から離れない
- ②配管の場所には目印を
- ③落雪によるタンクの転倒に注意
- ④定期点検を怠らない

今この時期は、暖房用の燃料給油、積雪や路面凍結による自動車事故、大雪による配管の破損などが原因の水質事故が増えています。水質事故は、突発的に発生し、下流へ拡散すると魚類のへい死や水道水等の取水停止など、環境や飲み水にまで影響する大きな被害につながる恐れがあります。
給油中は、その場から離れないよう一人一人の心がけが大切です。もしも、油流出事故が発生した場合、早期発見・早期対応が被害拡大を防止します。また、流出した油を水で洗い流すことは被害拡大に繋がりますので絶対にやめましょう。

冬期間に油流出事故が多発しています



橋の上から異常がないかを確認します。



冬期間は週2回の河川のパトロールを行っています。鮭川出張所管内では基本的に、積雪で堤防上が通行できなくなるため、橋の上や通行可能な堤防から河川状況を確認しています。



雪捨て場の状況確認をします。



この時期は灯油を使用する機会が増え、誤って灯油が流出するなどの油流出事故が多発するため、支流や水路などの異常の有無に重点をおいてパトロールしています。



堤防から河川状況を確認します。

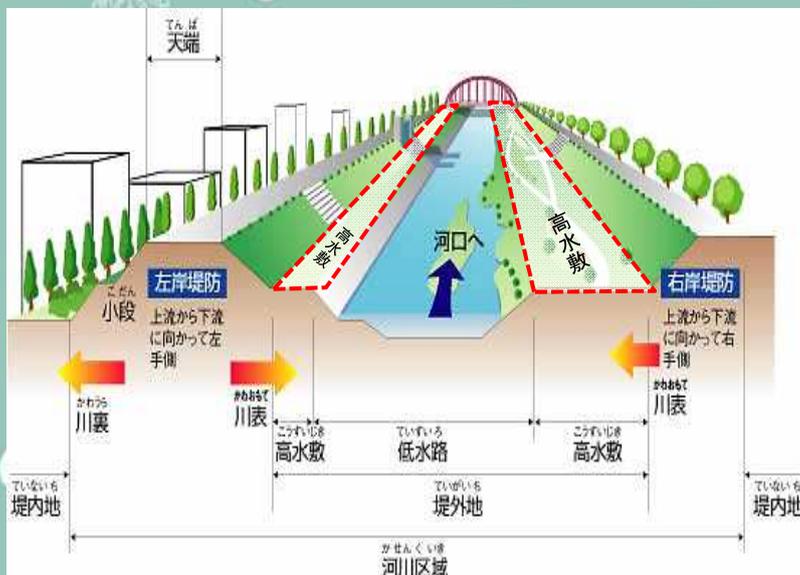


また、雪捨て場の使用状況や河川管理施設（樋管等）の積雪状況なども確認しています。

地域の方の安全・安心のため日々の点検や維持管理に努めています。

～河川の利用について～

河川は、誰もが自由に利用できる公共の空間であり自由使用が原則ですが、その利用が流水や土地を排他的・継続的に使用するなど特定の場合には、河川法の許可等が必要となります。また、河川法の許可等がなくても、他の河川利用者に迷惑をかけたたり危害を及ぼすおそれがある行為はモラルに反するものとなり、他の利用者に配慮し自身の利用の限度を超えないように注意して利用することが必要です。河川利用について不明な点等ありましたら、最寄りの各出張所にお問い合わせください。



河川の用語豆知識

- ▶ **川裏・川表** (かわうら・かわおもて)
堤防を境にして、水が流れている方を「川表」、住居地や農地がある方を「川裏」。
- ▶ **堤内・堤外** (ていない・ていがい)
堤防で洪水から守られているところが「堤内」、平常時や洪水時に流水が流れている側を「堤外」。
- ▶ **低水路** (ていすいろ) ▶ **天端** (てんぱ)
通常の川の水が流れている流路のこと。 堤防の一番高いところ。
- ▶ **高水敷** (こうすいじき)
複断面の形をした河川で常に水が流れる低水路よりも一段高い部分の敷地です。平常時には、グラウンドや公園などさまざまな形で利用されていますが、大きな洪水時には高水敷は浸かってしまいます。